# 新型コロナウイルス感染症流行下における医療系大学の授業形態による学生の満足度比較
## ～看護学生と医学生を対象に～

201022　栄田瞳
201036　高宮百優
担当教員：升田先生

## 研究課題の背景

2020年からCOVID-19の拡大

**生活習慣の急激な変化**を余儀なくされた

A医科大学でも・・・

対面授業とオンライン授業の両方を経験

## 目的

A医科大学の学生が対面授業とオンライン授業のどちらに、**より満足感を得ているか**について明らかにする

## 研究の意義

A医科大学の学生が対面授業とオンライン授業のどちらにより満足感を得ているかについて明らかにすることで、**より効果的な授業形態、学習形態を見出すこと**に貢献する

## 用語の定義

1.対面授業：A医科大学の**施設内で行われた座学、演習、グループワーク、発表**

2.オンライン授業：**対面授業以外の授業全て**

3.満足感:対面授業とオンライン授業のどちらが良いと感じていたか、どちらの方が学びやすかったか

4. 授業形態:座学や演習、本研究ではグループワークや発表も含む

## データ収集方法・分析方法

- 研究対象:

A医科大学医学部看護学科2-4年生(計181名)と医学科2-4年生(計311名)のうち研究者を除いた490名

- データ収集方法:

調査期間内(令和5年8月-9月)に無記名自記式アンケートを用いて集合法により対面で質問紙配付と回収を行った

- 分析方法:

単純集計ののち、X²検定を用いて学科別に比較した
統計にはマイクロソフトExcelを使用した

## 調査内容・倫理的配慮

- 調査内容:

①基本的属性　②オンライン受講状況
③授業の評価(座学、演習、グループワーク、発表それぞれ対面授業とオンライン授業のどちらが良いか とその理由)
④今後の授業形態の希望　⑤対面授業と オンライン授業への意見

- 倫理的配慮:

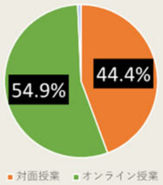
研究協力は自由で調査は無記名であり、個人は特定されない。データは本研究以外に使用しないことを文書と口頭で説明し、調査票の提出をもって同意を得たものとした。研究終了後、質問紙はシュレッダーにかけて細断し、データは完全に消去する。

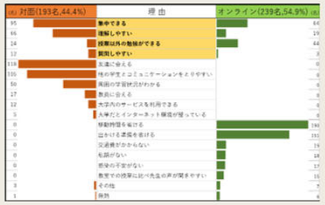
## 結果：授業形態別満足度とその理由

表1 授業形態別の満足度

| | | 全体(n=435) | 看護学科(n=170) | 医学科(n=265) | X2検定(看・医比較) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | n (%) | n (%) | n (%) | P値 |
| 座学 | 対面 | 193 (44.4) | 74 (43.5) | 119 (44.9) | 0.83 |
| | オンライン | 239 (54.9) | 94 (55.3) | 145 (54.7) | |
| | 無効・無回答 | 3(0.7) | 2(1.2) | 1(0.4) | |
| 演習 | 対面 | 347 (79.8) | 152 (89.4) | 195 (73.6) | 0.00002 |
| | オンライン | 85 (19.5) | 16 (9.4) | 69 (26.0) | |
| | 無効・無回答 | 3(0.7) | 2(1.2) | 1(0.4) | |
| グループワーク | 対面 | 322 (74.0) | 134 (78.8) | 188 (70.9) | 0.047 |
| | オンライン | 110 (25.3) | 34 (20.0) | 76 (28.7) | |
| | 無効・無回答 | 3(0.7) | 2(1.2) | 1(0.4) | |
| 発表 | 対面 | 182 (41.8) | 89 (52.3) | 93 (35.1) | 0.0001 |
| | オンライン | 250 (57.5) | 79 (46.5) | 171 (64.5) | |
| | 無効・無回答 | 3(0.7) | 2(1.2) | 1(0.4) | |

## 結果・考察　①座学

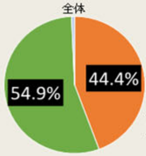

54.9%
44.4%
対面授業
オンライン授業



## 結果・考察　①座学

〈オンライン〉
・移動時間を省ける(190名)、出かける準備を省ける(151名)
→時間短縮などの「効率」に利点を感じている

全体

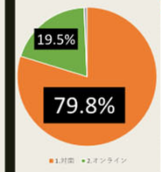


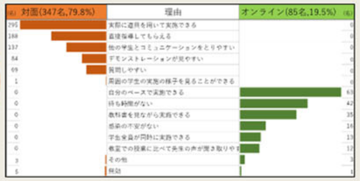
〈対面〉
・友達に会える(118名)、他の学生とコミュニケーションを取れる(105名)
→**他者との交流**に利点を感じている

・周囲の学習状況が分かる(50名)
→周囲の学習状況把握が自身の学習が**正しいか判断する指標の一つ**となる

**今後オンライン授業を行うには「効率よく受講できること」と「孤立感を覚えないこと」の両立が必要である**

## 結果・考察　②演習

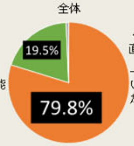




## 結果・考察　②演習

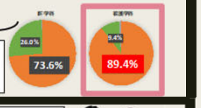
〈オンライン〉
・自分のペースで実施可能(63名)
・待ち時間が少ない(42名)
・学生全員が同時に実施可能(13名)
→時間短縮や効率化を重視

全体

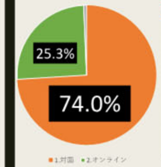


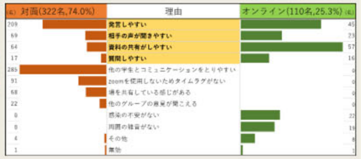
〈対面〉
・実際に器具を用いて実施できる(295名)、直接指導してもらえる(188名)
→特に看護学科は実際に器具を用いなければいけない（採血練習・車椅子移乗介等）技術が多く、**自宅実施が困難**

**器具を用いなければできない技術や複数人で行う事が多いため演習は対面授業で行う事が望ましい**



## 結果・考察　③グループワーク

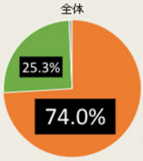




## 結果・考察　③グループワーク

〈オンライン〉
・資料の共有がしやすい(57名)
→**話し合いがスムーズ**に進む
・周囲の雑音がない(19名)
→自身のグループの話に**集中**できる
・感染の不安がない(22名,1割)
→感染に対する不安より他の面でオンライン授業に満足感を得ている人が多い

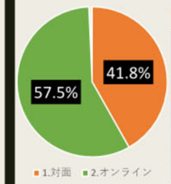
全体

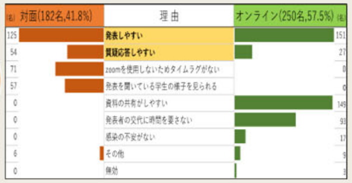


〈対面〉
・コミュニケーションがとりやすい(285名)、場を共有している感じがある(68名)、他のグループの声が聞こえる(22名)
→どのような雰囲気で進んでいるか**状況把握がしやすい**
・zoomを使用しないためタイムラグがない(91名)

**グループワークは他者とのコミュニケーションがとりやすい対面授業の方が満足感が高く、対面授業で行う事が望ましい**

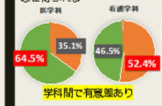
## 結果・考察　④発表



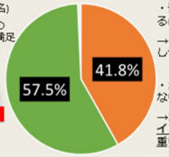


## 結果・考察　④発表

〈オンライン〉
・資料の共有がしやすい(149名)
→事前に資料を提示するなどの工夫を行うことで対面授業で満足感を得られる



全体

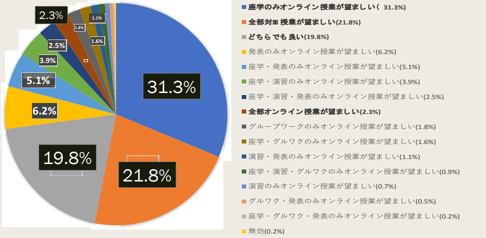


〈対面〉
・発表を聞いている学生の様子が見られる(57名)
→その場にいることで雰囲気を共有しやすく他者との繋がりに利点を感じる

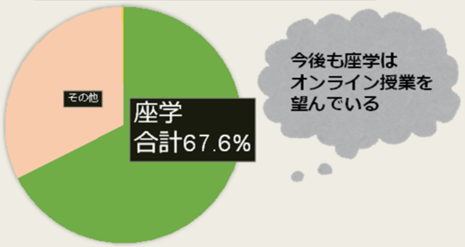
・zoomを使用しないためタイムラグがない(71名)
→オンライン授業で発表を行うには**インターネット環境が整っていること**が重要

**共通して「発表しやすい」「質疑応答がしやすい」が理由としてあり個人により捉え方が異なる**

## 結果　今後の授業形態の希望



## 結果　今後の授業形態の希望



## 結論

【座学】
これまで：**オンライン授業**に満足感を得ている人が多い(59.4%)
今後：**オンライン授業**が望ましいと答えている人が多い(67.6%)

【発表】
これまで：**オンライン授業**に満足感を得ている人が多い(57.5%)
今後：**対面授業**が望ましいと答えている人が多い (83.9%)

【演習・グループワーク】
これまで：**対面授業**に満足感を得ている人が多い (演習81.8%,グルワク76.0%)
今後：**対面授業**が望ましいと答えている人が多い (演習90.4%,グルワク95.4%)

座学：**オンライン授業**でも十分に実施可能
演習・グルワク・発表：**対面授業**が望ましい

## 今後について

コロナ禍の経験を通して・・・
オンライン授業に対応できるようになった

不足の事態に陥った際も柔軟に学習環境を整えることができて
**学生の学習機会を保障することが可能**

## 文献リスト

・藤田優一，植木慎吾，北尾美香他（2021）：新型コロナウイルス感染拡大下における遠隔と対面を組み合わせた授業方法に対する学生からの評価，日本看護科学会誌，41，148–154.
・橋本和幸(2022)コロナ禍にオンライン授業と対面授業の両方を受講した学生による授業評価, 了徳寺大学研究紀要（16），137–150
・平林信隆(2020)コロナ禍における大学のオンライン授業に対する新入生の認識についての探索的研究，共栄大学研究論集，(19)，55–66.
・辛島光彦(2021)コロナ禍における大学のオンライン授業に対する理系学生の意識調査-文系大学生の意識調査との比較-，東海大学紀要情報通信学部，14, 1–9.
・厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署(2020):情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン,7.
・松田春華,小川由佳他（2012）:女子大学生における睡眠の質に影響する要因の検討,日本看護研究学会雑誌,35,47-55.
・望月崇司(2020)オンライン授業の導入と今後の課題–インライン授業と対面授業の比較から得られた課題とは–成田会・研究ジャーナル，(2)，33-35.
・中川雅人（2022）：新型コロナで長期化する遠隔授業における学生の学びに関する調査．中部学院大学・中部学院大学短期大学研究紀要,23，129–139.
・中本陵介,垂水伸幸（2015）:面談を通して把握した低単位学生の特徴と学業関連領域における支援策実践例—ピア・サポーターを活用した修学支援,高等教育フォーラム,147-156.
・岡田佳子(2021):学生から見たオンライン授業のメリットとデメリットーオンライン環境下のアクティブラーニングに焦点を当ててー，長崎大学教育推進機構紀要11, 27-36
・田中希穂(2021）大学におけるオンライン授業の実践と課題，同志社大学教職課程年報，(10)，48–62.
・竹内朋香,犬上牧,石原金由,福田一彦(2000):大学生における睡眠習慣尺度の構成及び睡眠パターンの分類教育心理学研究,48,294-304.
・上村千鶴，中吉陽子（2022）：COVID-19パンデミックにおける授業形態が学修意欲にもたらす影響についての研究文献レビュー，安田女子大学紀要，50，329–336.